

大分市地域まちづくりビジョン

佐賀関地域ビジョン会議 通信 第3号

発行：佐賀関地域ビジョン会議事務局

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域ビジョン会議の目的

本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営等々諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このような中、市内13地域において、地域の代表者等で構成する『ビジョン会議』を設置し、議論を深めそれぞれの特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」としてご提言いただきます。

第3回佐賀関地域ビジョン会議



- 平成29年10月23日(月)14:00~
- 佐賀関支所 開会
- 一、会長あいさつ
- 二、議事
 - 1.第2回ビジョン会議の整理
(前回グループワーク意見のSWOT分析資料説明)
 - 2.グループワーク
まちづくりのコンセプトとりまとめ
まちづくりの方向性について
まちづくり事業の検討
- 三、その他
- 閉会



グループワークの流れ

テーマ1 ビジョン(コンセプト)を導く

テーマ2 SWOT分析によるまちづくり事業を導く

成果発表

まちづくりビジョン図に書き込まれた文章を読んで相応したビジョンにシールを貼り投票を行います。



- ①SWOT図の説明(加筆・修正)
 - ・SWOT図の内容を見直し加筆修正作業を行う。
- ②まちづくりの方向性を踏まえ、SWOT分析による事業の抽出
- ③SWOT対象図
 - ・事業の抽出共に該当する地点を図面上に落とす作業を行う。
- ④まちづくり事業一覧による事業化の可否の確認
 - ・考案者が班のメンバーに事業の趣旨を説明し、メンバーの合意を得る。



テーマ1

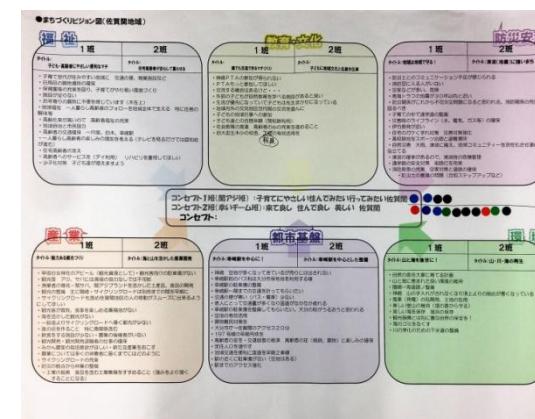
第2回ビジョン会議で各班の導いたビジョン(コンセプト)を参加委員の皆さんが投票により一つのビジョン(コンセプト)を導きました。

コンセプト案

- 『子育てにやさしい住んでみたい行ってみたい佐賀関』・・・4票
- 『来てよし 住んでよし 美しい 佐賀関』・・・・・・10票

投票結果：共通ビジョン(コンセプト)案として

『来てよし 住んでよし 美しい 佐賀関』を導きました。



テーマ2

①SWOT分析によるまちづくり事業を導く
これまでのビジョン会議で出された意見の整理を行ったSWOT図について見直し、加筆・修正を行いました。

1班(丸一みかん班) 加筆・修正項目

- ・海水浴場を複数有している(S)
- ・関の鯛つり踊り大会など盛大に行われている(S)
- ・高島、ウミネコを入れたキャンプ場(S)
- ・市中心部への交通の便が比較的良好(S)
- ・宿泊するところがない(W)
- ・老人にとって交通量が多くなり、国道を横断するのが疲れる(W)
- ・幸崎駅-旧佐賀関の交通体系をすると良い(W)
- ・漁業の新規就業者が毎年少数だが増えている(W)
- ・佐賀関半島の循環道路を広くすると観光誘致しやすくなる(O)
- ・深刻化する農業の後継者不足、に漁業も追加(T)
- ・四国への通過点となっている(T)



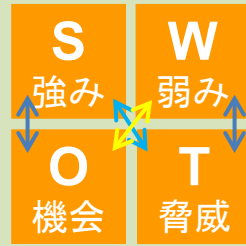
2班(関サバ班) 加筆・修正項目

- ・再生可能エネ(潮流)の可能性あり(S)
- ・第二国土軸計画の重要点(S)
- ・国立公園を持つ(S)
- ・若い人の防災訓練の参加を増やす(O)
- ・若い人のまちづくりの参加意識が低い(W)
- ・佐賀関港周辺の整備が未完成(W)
- ・食べる場所がない(店舗の廃業)(T)
- ・土砂災害、水災害に強い町づくり(T)
- ・インバウンド(訪日客)への案内(禁止事項など)(T)



※SWOT図とは・・・強み(S) 弱み(W) 機会(O) 脅威(T)に意見を分類したものです。

- ② まちづくりの方向性を踏まえ、SWOT分析による事業の抽出
- ③ SWOT対象図に事業の抽出と共に該当する地点を図面に落とす。
- ④ まちづくりアイデアを導き出した考案者が班のメンバー及び市職員に説明。



【SWOT分析について】

- ①SO「S:強み」×「O:機会」(活用・積極姿勢)
 - ・「機会」に応じた「強み」の活用策
 - ・組織や地域の「強み」を生かして、「機会」を勝ち取るための積極姿勢の施策
- ②ST「S:強み」×「T:脅威」(改善・差別化)
 - ・「強み」を生かした「脅威」の解消策
 - ・組織や地域の「強み」を生かして、「脅威」を招かないための差別化の視点たった施策
- ③WO「W:弱み」×「O:機会」(改善・弱点強化)
 - ・「機会」を生かした「弱み」の改善策
 - ・「弱み」を補強して「機会」を掴むための弱点強化の施策
- ④WT「W:弱み」×「T:脅威」(回避・防衛、撤退)
 - ・「脅威」に対する「弱み」の回避策
 - ・「弱み」で「脅威」を招いてしまうシナリオを避けるための防衛、撤退の施策

1班 (丸一みかん班)



【SWOT分析】



【SWOT対象図】



抽出された事業

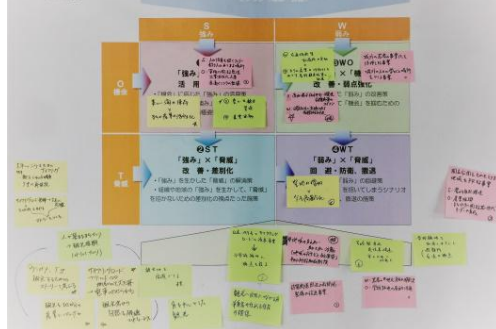
- 佐賀関中心部を活性化したい
- 観光駐車場の整備
- 関崎灯台・小、高の跡地活用(観光事業)
- 小・高校跡地活用による観光事業
- 大志生木小跡地を人が集まる拠点とする。運動場→公園、テニスコート・校舎→アトリエ工房、憩いの場
- 高齢者が安心して住めるまちづくり事業
- 幸崎駅(JR発車時刻の連動)から半島循環のバスの運行
- 乗り合いタクシーの拡大
- まちおこし、各種行事を〇〇する母体組織の形成
- 観光の中核となるエリアの整備 街並みづくり 観光施設(土産屋、レストラン)



2班 (関サバ班)



【SWOT分析】



【SWOT対象図】



抽出された事業

- 食を中心とした観光
- 人が集まるまちづくり→観光復興(魅力づくり)観光地を周遊できる事業
 - ・ウミガメ、歴史、観光するためのストーリーを考える
 - ・サイクリングロード→ツールド〇〇 拠点として大志生木 →電車に乗せられる
 - ・観光を地域の産業につなげる・観光客から自然を破壊されないように
- 地域の支え合い助け合い活動(地域のサービス、自主運営)それに対する助成制度
- 国道197号とサイクリングロードの改良事業
 - 小学校跡地に拠点を設ける。観光~定住につなげる為単身者の住める住居の確保
- 佐賀関港周辺の再開発整備の促進事業
- 幸崎駅周辺定住者促進(市の土地に住宅を)



成果発表：班の導いた事業の主要なポイントを発表しました。

班名	事業名	6つの対策						SWOT戦略				対象エリア	事業化	コメント	
		①	②	③	④	⑤	⑥	●	○	●	○				
ジョン会議	① 佐賀関中心部を活性化したい							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・①②④の事業は重なる部分がある ・現在はシャッター通り →食事のできる場所をつくり、街を盛り上げる。 ・若い人を呼び込みたい ・関連して、交通のインフラ整備も必要 →幸崎駅の接続を良くし、周辺に駐車場整備
	② 観光駐車場の整備							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・①②④の事業は重なる部分がある ・駐車場の場所がわからない ・ナビに番号を入れたら表示されるような駐車場の整備が必要 →佐賀関は1度来てみたら良いところであるとわかる
	③ 灯台を活用した観光事業							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀関半島、関崎灯台を中心とした観光を進めていく ・「うみねこ」や無人島の「高島」を活かした観光開発
	④ 小・高校跡地活用による観光事業							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・④⑤の事業は重なる部分がある ・学校跡地を活用するには →道路網の整備、公共交通の充実、整備が必要 →人を集まりやすくする必要がある
	⑤ 大志生木小学校跡地を人が集まる拠点とする	●						●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・④⑤の事業は重なる部分がある ・学校跡地の活用方 →グラウンドは公園やテニスコートに →校舎は憩いの場やアトリエ・工房などに利用
	⑥ 高齢者が安心して住めるまちづくり事業	●						●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会、一人暮らしの高齢者の増加 ・総合病院を活用して健康づくりの実施 →公園の整備などが必要 ・若者が地元に残りたくなるような事業が必要
	⑦ 幸崎駅から半島循環バスの運行							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・バスがホームまで入っているようになれば良い ・JRの時刻と連動させる
	⑧ 乗り合いタクシーの拡大	●						●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便 →高齢者を住みやすくする必要がある ・ワンコインバスで行ける場所の拡充 ・大分市外にも行きやすくする(金銭的にも)
	⑨ まちおこし(各種行事を推進する母体組織の形成)	●						●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOや商工会議所が企画をしても実行者がいない →行政も介入が必要 ・地域のための若者の人材育成が必要
	⑩ 観光の中核となるエリアの整備							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・①②④の事業は重なる部分がある ・中心に駐車場の整備 ・お土産屋も必要

【丸一みかん班】

個別には10ほど出てきています。大きくわけますと、観光事業、私達が暮らすために自分たちに関わる事業、そして公共用地の利用、高校等廃校になったその跡地の有効利用です。これが大きく3つに分かれ、多少それぞれ前後してオーバーラップしているところもあります。

班名	事業名	6つの対策						SWOT戦略				対象エリア	事業化	コメント	
		①	②	③	④	⑤	⑥	●	○	●	○				
関サバ班	① 食を中心とした観光							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・②④の事業と重なる部分がある ・市内中心部に食事できる場所をつくる
	② 人が集まるまちづくり→観光復興(魅力づくり)観光地を周遊できる事業							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・①④の事業と重なる部分がある ・各地域を巡るサイクリングロードの整備 ・ツールドサガノセキの様なイベントを開催、大志生木小跡地を拠点に利用 →大分市のサイクリングロードと協力し圏域の認定を目指す(シCI:国際自転車競技連合へ) ・ウミガメの産卵場所や地域の歴史などの観光地を周遊できる準備 ・10/29には親子で大平~幸崎までサイクリングし地域や歴史の再発見をするイベントを実施する ・自転車を電車に乗せられるようにする(JRと協力) ・観光を地域の産業につなげる ・観光客(インバウンド)に対しての外国語の看板設置(禁止事項など) ・観光するためのストーリーをつくる ・国立公園とそれをとりまく地域をPRする
	③ 地域の支え合い助け合い活動	●	●					●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や認知症の方を集めて食事やカラオケをサロンで実施している ・要支援1、2の方が介護保険から外れた →地域での支え合いが必要 →助成金(大分市からの)が必要 ・高齢化が進む中で、空家なども活用して活動を広げる。
	④ 国道197号とサイクリングロードの改良事業	●	●					●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・①②の事業と重なる ・学校跡地のリノベーションサイクリングロードの拠点に →避難所や交流の拠点としても利用 →域外の若者の事業化の後押しや、学びの場としても利用 ・若い人の意見も聞きたい →まちづくりに関する若いリーダーの育成 ・R197の改良は通学路や通勤路の改良にも繋がる
	⑤ 佐賀関港周辺の再開発整備の促進事業							●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀関港の使い勝手をよくする再整備 ・釣りができる場所をつくり、滞在してもらう ・周辺で買い物しやすくする ・地域活性化できる事業もできるのでは(自動走行車の導入など)
	⑥ こうざきエリアの定住化促進事業(幸崎駅の土地の利用)	●						●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・大分から市、特に定住者が増えてきている。(幸崎の受入れの準備が必要) ・幸崎駅周辺に市の土地(空き地)が多く、そこに住宅を建てて定住者を増やせないか ・市と地元で力を合わせて

【関サバ班】

食を中心とした観光に人が集まるまちづくり。主にサイクリングロードの活用をセットにしています。そして、地域の支え合い助け合い活動と佐賀関港周辺の再開発の促進事業、あとはこうざきエリアの定住化促進事業です。以上大きく分けて3つ出ました。